



福島小学校だより

ふくしま

No. 10

平成29年1月31日



ホームページ <http://www9.wakayama-wky.ed.jp/fukushima/>



光の春

校長 嶋本憲司

2月3日は節分、2月4日は立春です。立春と聞くと、すぐに暖かくなってくるような気がします。まだまだ寒い日が続きます。

けれど、日の出の時刻は早く、日の入りの時刻は遅くなっていき、太陽の出ている時間が毎日2分ぐらいずつ長くなっていきます。また、太陽の角度も少しずつ高くなり、日差しが強くなってきて、日中の明るさも増していきます。それでも、気温は低いままですが、光から春の訪れを感じられるようになっていきます。

こうしたことから、ロシアでは、2月のことを「光の春」と言うそうで、長く寒い冬に耐えながら春を心待ちにしている国の人々ならではの表現だと思います。

この頃になると、日当たりのよい空き地や土手には、オオイヌノフグリの青い花やナズナの白い花が見られるようになります。一方、樹木は、まだ落葉したままで何の変化もないように見えますが、よく見てみると枝先にはたくさんの木の芽がついています。変わらないように見える樹木も、しっかり張った根から水分や養分を吸い上げ、幹から枝々に送り、花を咲かせたり葉を芽吹かせたりする準備を怠りなく進めています。

子ども達にとっても、2月はちょうどそのような時期です。1年生から5年生は進級へ向けて、6年生は卒業・進学へ向けて、それぞれの学年の仕上げをする時です。勉強や運動はもちろん、友達との関わりや挨拶などの日常生活を見直し、がんばってきたことやできるようになってきたことを確かめてください。そして、得意なことを伸ばし、苦手なことは克服できるように、毎日の学習や生活に真剣に取り組み、しっかり力をつけていってほしいと思います。

光の春。季節は暖かい日と寒い日を繰り返しながら、本格的な春へと歩んでいきます。子ども達も、それぞれの春に向かって、一日一日を大切に積み上げていきましょう。

2月の学校行事予定です。

1 (水) 交通・挨拶指導

委員会活動

いじめなくそうデー

2 (木) 3年わうくらす③

3 (金) 新入児保護者説明会

7 (火) スクールカウンセラー来校

集金一日目

8 (水) 集金二日目

9 (木) ふれあい集会

10 (金) 3年わうくらす④

13 (月) 避難訓練・防災講座

14 (火) パトリック英語活動

15 (水) クラブ活動(3年見学)

16 (木) 歌唱指導(出前授業)

17 (金) 参観・懇談、評価委員会

18 (土) 福島ミニオリンピック

21 (火) スクールカウンセラー来校

22 (水) 漢字検定

23 (木) 6年お別れ遠足

25 (土) 子どもセンター行事

27 (月) ALT英語活動



校内なわとび大会

2月中に実施予定

2月9日(木) 7:25-7:30

WBS和歌山放送ラジオ

「ゲンキ和歌山市」で、6年生の英語活動の紹介が放送されます。



わうくらす (動物愛護教室) で学んだこと



3年生では、1月20日、24日にわうくらすの先生方にきていただき、犬とのふれあい方、動物を飼うことにあたって気を付けなければならないことなどを学習しました。

3年生の子どもたちは、生き物が大好きな子が多く、「どんなワンちゃんが来てくれるのかな。」「さわれるのかな。」と、わうくらすの日を楽しみにしていました。

1月20日は、犬のすごい能力をたくさん教えてもらいました。犬の嗅覚きょうかくの話になり子どもたちは「人の1万倍!」「いや、もっと少ないんじゃない?」と話していました。みなさんはおよそ何倍くらいだと思いますか?なんと!犬の嗅覚は人の100万倍~1億倍もあるそうです。では走る速さでは勝てるんじゃないか?!犬よりも速く走れるよ!という速さ自慢の子どもたちでしたが、犬の走るスピードは時速60km…車と同じようなスピードでは、さすがに追いつくことはできません。犬たちのすぐれた能力に、子どもたちはおどろきっぱなしでした。

いよいよお待ちかねの、ワンちゃんたちとのふれあいの時間!その前に、ワンちゃんに触れる前には飼い主に必ず「さわってもいいですか?」と確認することや、ワンちゃんへのあいさつの仕方を教えてもらいました。



中には犬にふれるのが初めての子もいましたが、「ふわふわだった!」「犬の体温は38度くらいあるんだって!」「ペロとなめてくれたよ。」と、ふれあいを楽しむことができました。

家で犬を飼ってみたい!という感想が多かった1回目でしたが、2回目では動物を飼うために必要なことをたくさん教えてもらいました。

動物を飼うということは、命を預かるということです。かわいいから、飼ってみたいからという気持ちだけでは命を預かることはできません。まずは、その飼いたい動物がどれだけ生きるのか、家族みんなで協力してお世話をしあげることができるのか、最期までその子をみてあげることができるのか、よく考える必要があることを子どもたちは学びました。

和歌山では珍しく、雪の降り積もった24日。わうくらすが終わった後、「ふくうさちゃん、寒くないかな。」「寒くて凍えてないかな。」と心配する子たちがいました。今回学んだことで、身のまわりにいる全ての生き物に対する優しい思いが芽生えたように感じました。これからも、命を大切に、思いやりの心を育てていってもらえれば…と願っています。